

平成30年度愛知県がんセンター公開講座(第4回)のご案内

「外科領域における、ロボット手術の適応拡大」

= 平成30年11月24日(土)開催 =

〈 講師からのメッセージ 〉

「直腸がんのロボット手術」

直腸がんに対する手術は1908年に初めて発表されました。100年以上たった今でも同様の手術が行われている一方で、腹腔鏡手術は大きく進歩し、近年、日本中の大腸癌手術の7割が腹腔鏡で行われています。腹腔鏡手術はそれ自身の進歩だけでなく、その精緻な映像で直腸がん手術自体を低侵襲だけでなく、機能温存の面で大きく前進させました。そして今年、新たな方法として直腸がんに対するロボット手術が保険適応となりました。これまで行われてきた開腹手術、腹腔鏡手術そして最新のロボット手術について、わかりやすくお話しいたします。

中央病院 消化器外科部 医長 木下 敬史

「子宮体がん・子宮頸がん手術の最前線

-ロボット、腹腔鏡、開腹手術の違いは何?-」

医療用ロボット技術の発展により、婦人科がん領域でも、ロボット手術は特別な方法ではなく、一般的治療法の選択肢の一つへと変遷しています。ロボット手術や一般の腹腔鏡下手術は、創部は小さく、痛みも比較的少なく、早期退院が可能と、女性に非常に優しい手術です。しかしながら、新しい方法は、更にデータを集積し、長期的な治療成績を検討する必要もあります。新たな選択肢が増え、余計に迷われる患者さんも少なくありません。従来の開腹手術や腹腔鏡手術、そしてロボット支援腹腔鏡下手術の適応とその違いについてお話しいたします。

中央病院 婦人科部 部長 水野 美香

「泌尿器科ロボット手術の適応拡大

-腎部分切除、前立腺全摘除、膀胱全摘除-

泌尿器がんに対するロボット手術が、年々拡充しています。

実際には、腎がんに対する腎部分切除、前立腺がんに対する前立腺全摘、膀胱癌に対する膀胱全摘まで保険適応され、泌尿器がんに対する手術の80%以上がロボット補助下に行われる状態になっています。

2018年11月末の段階で、当院で施行させていただいたロボット補助下前立腺全摘は約170例、ロボット補助下腎部分切除が約11例であり、ロボット補助下膀胱全摘は準備を進めています。

今回の市民公開講座においては、泌尿器科がんに対するロボット補助下手術の実際を説明させていただきたいと思っています。

中央病院 泌尿器科部 部長 曾我 倫久人